

I. 神奈川県内 d. イベント記録堆積物

(4) 液状化による噴砂脈 露頭剥ぎ取り標本 (小田原城御用米曲輪トレンチ)

標本番号 KPM-NP 36, 37

標本名

KPM-NP 36: 小田原城御用米曲輪トレンチ関東ローム層液状化 露頭剥ぎ取り標本 (立体復元)

KPM-NP 37: 小田原城御用米曲輪トレンチ関東ローム層液状化 露頭剥ぎ取り標本

大きさ

KPM-NP 36: 幅 1.7 m, 底面 0.42 m + 高さ 0.6 m

KPM-NP 37: 幅 3.6 m, 高さ 0.8 m (右) ~ 1.0 m (左)

重量 KPM-NP 36: 15.2 kg (板付き), NP 37: 8.1 kg

形状・展示・収納状況 KPM-NP 36 は固定した板を折りたたみ、KPM-NP 37 は薄い絨毯状の短辺を軸として巻いて大型移動棚に収納

採集地 神奈川県小田原市城内

緯度・経度 N35°15'06", E139°9'15"

標高 15 m

露頭の種別と現状 発掘調査トレンチ、埋め戻し露頭面の向き、傾斜 N45°E, 90° (底面及び南東側側面)

堆積物の種別 降下テフラ (陸成層)

年代 58 ka (箱根三色旗テフラ, 町田・新井, 2003)

採集作業者 森山哲和 (考古造形研究所)

採集立会い者 笠間友博、石浜佐栄子

採集日 2012年10月4日

関連文献等

佐々木健策・笠間友博・鈴木茂, 2016. 史跡小田原城跡御用米曲輪修整整備事業報告1 史跡小田原城跡御用米曲輪発掘調査概要報告書. 小田原市教育委員会, 16-19.

笠間友博・山下浩之, 2007. 神奈川県小田原市久野諏訪原で確認された斑レイ岩質岩片を含む諏訪原スコリア (新称). 神奈川県博物館研究報告 (自然科学), (36): 17-24.

解説 発掘調査のために作製されたトレンチ側面に出現した露頭の剥ぎ取り標本である。トレンチは御用米曲輪南西部に北東—南西方向に3つの部分に分けて断続的に掘られ、合計の長さ約20 m、幅1 m、深さ1 mであった。KPM-NP 36は、トレンチの底面～側面を連続して剥ぎ取り、逆方向に折り返して直角の板 (蝶番により折りたたみ可能) に固定した標本。KPM-NP 37は、同様にトレンチの底面～側面を連続して剥ぎ取ったものだが、板に固定していない。

箱根東京テフラの軽石流堆積物 [Hk-T(pfl)] を覆う武蔵野ローム層が見られ、58 ka (新井・町田, 2003) の箱根三色旗テフラ [Hk-SP] (三色旗軽石, SP) が含まれていた (佐々木ほか, 2016)。剥ぎ取りは南東側壁面の噴砂脈 (構成物はテフラ、スケッチ中のA~E) が集中して見られる部分で行った。箱根火山東麓部のHk-SPは1枚のテフラではなく6枚ほどのテフラ群より構成される (笠間・山下, 2007)。トレンチに出現したのは下位の3枚と考えられ、そのうち液状化し、噴砂脈を形成したのは最下位のテフラと推定される。噴砂脈は北西—南東方向に延び、構成する物質は白色を呈する風化、粘土化した軽石で、B

では中央に粒径1~5 mmの褐色スコリア、岩片に富む部分があり、Dでも中央に粒径1~3 mmの褐色スコリア、岩片に富む部分があった。

記録者 笠間友博

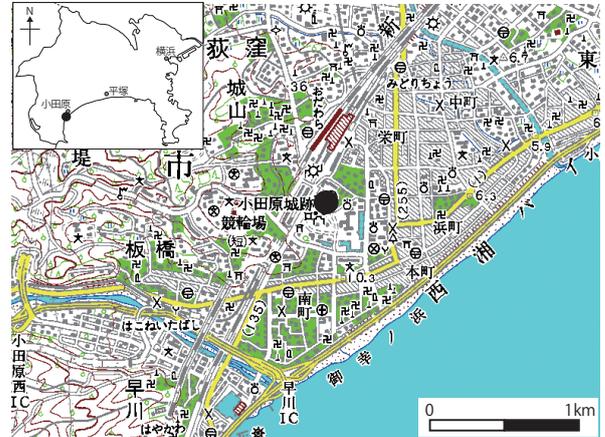


図 Id-4-1. 採集地点 (国土地理院発行の数値地図50,000 (地図画像)「埼玉・東京・神奈川」を使用)。

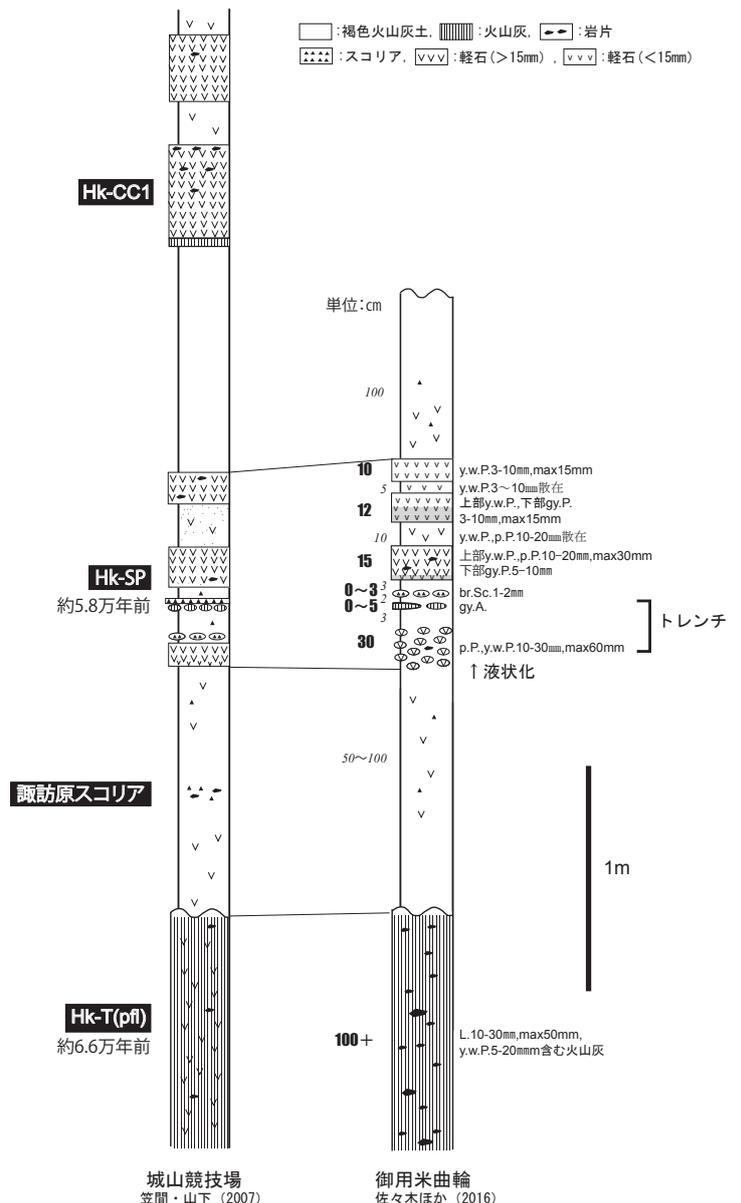


図 Id-4-2. 剥ぎ取り標本の層準。

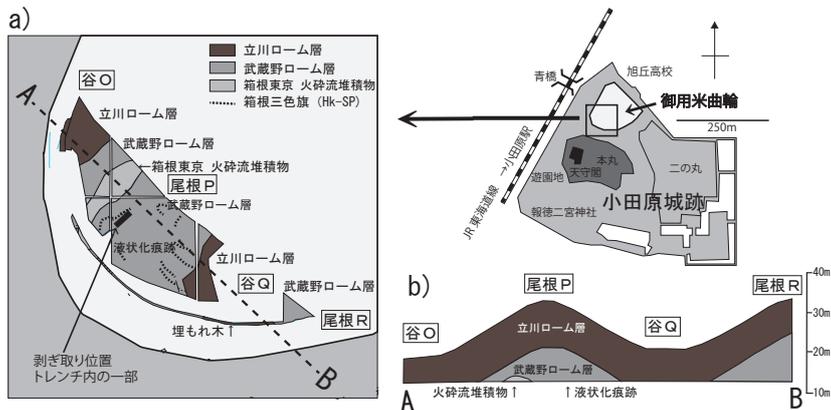


図 Id-4-3. 採集地点 (詳細図) (佐々木ほか (2016) に加筆).



図 Id-4-4. 剥ぎ取り標本の採集の様子.



図 Id-4-5. 剥ぎ取り標本 (KPM-NP 36) の写真 (立体復元状態).

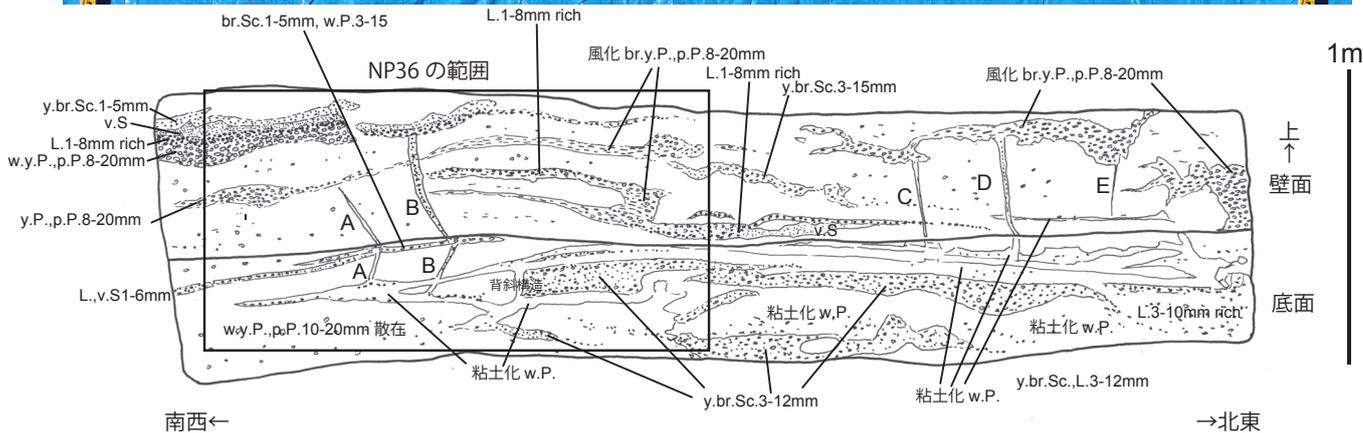


図 Id-4-6. 剥ぎ取り標本 (KPM-NP 37) の写真 (上) とスケッチ (下: 上半分が底面, 下半分が側面, 空間原図).